

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	小松 奈々 【比較社会文化学専攻 平成22年度生】	<p>本研究は、日本語を外国語として学ぶ環境の中級学習者に対する会話指導への示唆を得ることを目的として「意見交換会話」を取り上げ、五つの研究を基に論じている。従来主流であった、話し手としての意見述べに重点を置く口頭能力ではなく、会話相手とのやりとりを経てコミュニケーションを達成する力であるインターアクション能力の育成を目指し、韓国語を母語とする中級日本語非母語話者（以下中級 NNS）と日本語母語話者（以下 NS）による接触場面の会話参加の様相を明らかにし、その結果を基に新たな会話指導の方法を提案している。</p> <p>研究1では、中級 NNS は超上級 NNS より「意味交渉」の発話出現数が多く、共有した情報を合成・加工する発話機能である「意見」および「評価」の発話出現数が少ないこと、研究2では、中級 NNS は NS の情報要求に対する応答が多く、NS の発話への同意の発話が少ないために、会話参加が非対称になっていること、研究3では、中級 NNS に個人の体験談をはじめとする状況の説明が多く、意見陳述が冗長になる傾向が見られた一方で、超上級 NNS は簡潔に意見を述べる傾向があり、内容構成においては、意見に対する理由に裏づけをし、主張を明確化したり限定したりすること、研究4では、会話相手と同意見の場合は、両群の同意表現の出現頻度は同程度であったが、中級 NNS が相づち的な発話による同意表現を多用しているのに対し、超上級 NNS は実質的な発話によるものと相づち的な発話によるものを使い分けていること、一方異なる意見の場合は、中級 NNS では同意表現をほとんど用いていないのに対し、超上級 NNS は全面的な同意ではないという信号を送りつつも同意表現を用いていることが明らかにされた。研究5では、研究1から4で得られた結果を基に実践授業を行い、接触場面の会話ルールおよび聞き手としての役割の観点から学習者の意識の変容について論じた。</p> <p>第一回審査会では、中級 NNS の目標とする話者として、NS ではなく超上級 NNS としている点、日本語教育における会話指導への具体的な示唆に富む点、理論に基づき体系的な議論がされている点などが評価された。しかし、あいまいな記述があること、統計分析についての修正すべき点があることなどが、改善すべき事項として指摘された。申請者がこれらの要求に十分に応えた修正版を作成したことを確認した後、最終審査に進むことを決定した。公開発表会では重要な点を簡潔にまとめた分かりやすい発表を行い、参加者や審査委員の質問にも真摯な姿勢で的確に応答した。以上によって審査委員会は、博士（人文科学）(Ph.D.in Applied Linguistics) の学位授与に相当すると判断し、合格とした。</p>
論文題目	接触場面の意見交換会話における日本語中級非母語話者の会話参加の様相—インターアクション能力養成のための会話指導に向けて—	
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
審査委員	教授 森山 新	
審査委員	准教授 西川 朋美	
審査委員	教授 伊藤 美重子	
審査委員	准教授 田崎 敦子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否 )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	